

# 大麦栽培ごよみ

黒部市農業協同組合  
新川農林振興センター

## 350kg どり栽培の要点

<収量構成要素> m<sup>2</sup>当穂数 450本(苗立数150本×1株穂数3本)  
1穂収量 1.05g(1穂粒数30粒×千粒重35g)

- ①麦づくりは排水第一  
集約化とともに、稲刈り直後に額縁排水溝を設置する。(手直随時実施)
- ②土づくりの実践：石灰質資材と堆肥等の有機物の施用
- ③種子更新を行うとともに適期播種を行う。耕起播種は一日のうちに。
- ④積雪前に排水溝の手直しを行う
- ⑤消費後追肥で茎数・穂数確保
- ⑥的確な防除で品質向上ニ赤かび病防除の徹底

令和2年産 品種：ファイバースノウ

『品質目標』 品質ランク格付け Aランク

- 容積重 690g/L以上
- 細麦率 2.2mm下に2.0%以下
- 白度 43以上
- 硝子率 40%以下

m<sup>2</sup>あたり  
茎数  
(本)

800  
600  
400  
200

600~800本/m<sup>2</sup>



積雪期間

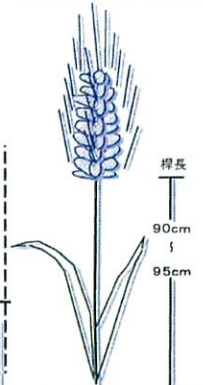


節間伸長期

結実日数  
40~45日

m<sup>2</sup>穂数 450本

積算温度750℃



大麦の生育



9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月

生育 発芽 分けつ期 幼穂発育期(幼穂1mm) 出穂期 成熟期

作業

- ① 排水対策  
(稲刈後すぐ排水対策)

- ② 土壌改良資材等施用

- ③ 種子の準備  
・ 耕起播種  
・ 基肥施用
- 1日で完了する

- ⑤ 第1回追肥  
(播種1か月後)

- ⑥ 排水溝の手直し

- ⑥ 排水溝の手直し  
(融雪水の排水)

- ⑤ 第2回追肥  
(消費後直ちに)

- ※ 茎立期追肥  
(茎数不足の場合)

- ⑤ 第3回追肥  
(止葉展開期(出穂の12日後))

- ⑦ 赤かび病防除① (穂揃期)
- ⑦ 赤かび病防除② (1回目から7日後)

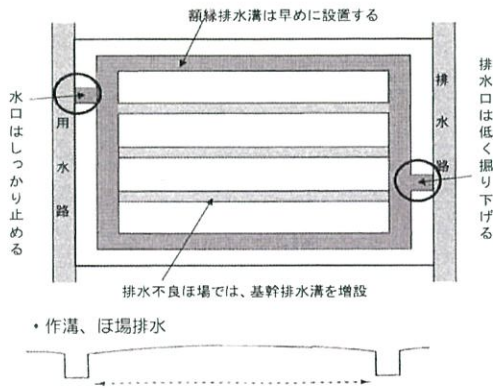
- ※ カスハイドリの  
抜き取り

- ⑧ 収穫  
(刈取り)

栽培管理のポイント

### ① 排水対策

- ・ 稲刈り後、早急に額縁排水と基幹排水溝を設置する
- ・ 発芽率、苗立数の確保のために排水対策はしっかりと
- ・ 透水性の悪い場合は、心土破砕を行う



- ・ 溝、ほ場排水
- うね幅  
排水不良 → うね幅2m程度  
標準 → " 3m程度
- ・ ほ場が乾き、条件の良いときに作溝する
- ・ 溝は巾(30cm)、耕盤(約20cm)より深く縦浸透を図る
- ・ うね立て後、両肩の山をならし、カマボコ型とする

### ② 土壌改良資材施用

- ・ pH6.0を目標に、石灰質資材を耕起前に必ず施用する

区分	肥料名	施用量
土壌改良資材 (酸度矯正)	珪酸石灰	100~200kg
	チャンピオン	60kg
有機物	堆肥	2t
	発酵けいひん	100~200kg

### ③ 種子の準備

播種時期	播種量		目標苗立数 (本/m <sup>2</sup> )
	散播	ドリル播	
10月上旬	7~8kg	6.5~7.5kg	150
10月中旬	9kg	8.5kg	200

種子消毒の方法	
風呂湯浸法	42℃の風呂湯に10時間浸漬し、自然に温度を下げる
循環式催芽器	45℃の温湯に入れ、2.5時間浸漬する(時間厳守)
薬剤粉衣	ベンレートT水1対液20を乾燥種子重量の0.5%粉衣 種子10kgに水200mlを加用し、50gの薬剤を均一に混和する

### ④ 施肥・耕起・作溝・播種

- ・ ほ場の乾いたときに、上記の1連作業を1日で完了する
- ・ 播種適期は上記記載とおとりとして、10月上旬、遅くとも10月中旬までに播き終える。事前の排水対策が大事!!

基肥(10aあたり)		
区分	肥料名	施用量
分施肥体系	BB特15号	45kg
一発体系	LP大麦48号	45kg

### ⑤ 追肥 (分施肥体系の場合)

追肥	時期	肥料名	施用量
1回目	播種1か月後 (11月上旬)	硫安	20kg
2回目	消費直後 (2月下旬)		20kg
※ 茎数不足の 防止のみ	茎立期 (3月下旬)		10kg以内
3回目	止葉展開期 (4月1中旬、出穂12日前後)	10kg以内	

※ 葉色5以上、穂数500本/m<sup>2</sup>以上の場合は追肥しない

### ⑥ 排水溝の手直し

- ・ 排水対策は、大麦栽培の"かなめ"
- ・ 11月下旬の降雪前、2月下旬の融雪期の他生育期間中に随時、排水溝の手直しを行う

### ⑦ 赤かび病の防除

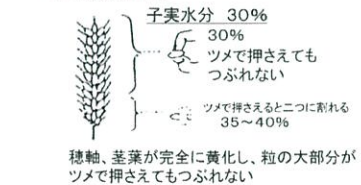
- ・ 赤かび病の混入限度は0.0% (検査規格)
- ・ 出穂後2週間が感染しやすい時期なので遅れないよう2回の防除を徹底する。(液剤の方が防除効果大)

基本防除(赤かび病10aあたり)		使用する際は「カ」等を確認し使用基準を遵守する			
防除時期	薬剤名	薬使用量 (希釈濃度)	希釈水量	使用回数	収穫前日数
1回目(穂揃期)	トップジンM水和剤	150ml (1000倍)	150%	3回以内	14日前迄
	トップジンM粉剤DL	4kg	-		
2回目 (1回目の7日後)	ストロビーフロアブル	75ml (2000倍)	150%	2回以内	14日前迄
	ワークアップ粉剤DL	3kg	-		

### ⑧ 収穫

- ・ 出穂後40~45日頃
- ・ 穂軸、莖葉が完全に黄化し、子実水分30%を目安に収穫開始

#### ○刈取期の目安



#### ○乾燥

- ・ 通風乾燥機の送風温度は概より5℃高くし仕上げ水分13.0%とする。

#### ○選別

- ・ ライスグレーダの網目は2.3ミリで粒揃いの良いものに仕上げる。